

国語 第2学年 思いをつたえる手紙を書こう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：相手のすてきだと思うところを、自分で見た行動とそのときの思いを添えて手紙に書く。ほめる形容詞だけを並べず、読んだ相手がどの出来事のことか思い浮かべられるようにする。B(1)ウの学習として、すてきなところを伝える手紙。出来事と自分の思いのまとまりを確かめ、相手に合った言葉で結ぶ。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：すてきなところを伝える手紙を残す。出来事と自分の思いのまとまりを確かめ、相手に合った言葉で結ぶ。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：相手の性格を決めつける言葉になる。出来事がなく、ほめ言葉だけになる。文の主語が変わったことに気付かない。これについて、相手の行動を見た場面を絵やメモで表してから文にする。公開や相互評価を嫌がる相手への手紙は扱わない。文を声に出して読み、誰の行動か、どんな思いかを聞き手が返す。〔知識及び技能〕(1)キとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「すてきだと思ったことは、どんな出来事から伝わりますか。そのときの思いと順に読むと、手紙の意味はつながりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：すてきなところを伝える手紙は紙に記録できる。出来事と自分の思いのまとまりを確かめ、相手に合った言葉で結ぶ。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：相手から返事が来ないと評価できないのか。

返し：B(1)ウで評価するのは児童の書き表し方である。返事の有無や相手の好意の強さではなく、出来事と思いのつながる下書き・完成稿を資料にする。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「すてきだと思ったことは、どんな出来事から伝わりますか。そのときの思いと順に読むと、手紙の意味はつながりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

